



安全管理活動分科会（第3会場）

会場 カラスマプラザ21ビル（8F京都烏丸コンベンションホール）
〔京都市中京区烏丸通六角下る七観音町634〕

交通 京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」21番出口より徒歩3分
京都市営地下鉄東西線「烏丸御池駅」5番出口より徒歩4分
阪急京都線「烏丸駅」21番出口より徒歩3分

10月24日（木） プログラム（9:00開場）

9:30

① 社員・協力会社社員の安全意識向上の取り組みについて

JR東日本ビルテック(株)
本店 安全推進部 課長

中島 英明

弊社はJR東日本管内の駅舎駅ビル維持管理等を行っている。多種多様なお客様、当社社員、協力会社社員の安全確保が重要な使命となっている。当社では全社員対象に安全教育や階層別安全研修を行っている。その一部を説明し当社特有の安全確保の取り組みを紹介する。

9:50

② レール付属品検修による安全の取り組みについて

九鉄工業(株) 北九州支店
軌道課 所員

吉川 聡也

レール付属品検修とは、鉄道の列車運行に不具合の生じる軌道部材がないかを点検する作業ですが、過去にこの点検中に一歩間違えば触車事故に繋がる待避不良が発生したことから二度とこのような事が起こらないための取り組み（作業ルート図の作成と写真ファイルの作成）を発表する。

10:10

③ 軌道工事における火災のリスクと防火対策について

シーエヌ建設(株)
軌道部 多治見軌道事務所 千種事業所 技術係主任

松井 翔太

軌道工事において木製のレール受台を燃焼させてしまったことを契機に、火災のリスクを洗い出し、対策として、散水方法や防火シートを用いた養生等の作業手順書を作成した。また防火塗料による木製受台の難燃焼向上に関する検証を行ったので、これら防火対策の研究成果を報告する。

（10:30～10:40 休憩） 10:40

④ 災害警備時の労働災害防止に向けた取り組み

北海道旅客鉄道(株) 函館支社
函館新幹線工務所 施設技術係

吉田 祐樹

新幹線線路は高架橋構造が多く路盤と線路の間に高い段差がある。警備発令時に運用する自動バイは重量が100Kg以上あるが2名で運用することを想定しているため、人力による離載線は困難である。よって、少人数でも安全で迅速に運用出来る補助器具を考案、作製し、安全性の向上を図った。

11:00

⑤ 運転士から見た安全・安心な列車待避方法

西武鉄道(株)
電気部 保谷電気所 担当副所長

渡辺 正人

鉄道の3大重大災害の一つである「触車災害」防止を目指した取り組み事例。作業員と運転士との目線の違いに着目し、運転士アンケートを実施した。そこから見えた問題点をソフト・ハードの両面で改善することで、事故の芽を摘み取り、お互いが安全・安心な列車待避に繋がった。

11:20

⑥ 橋梁におけるケーブル敷設作業の安全対策

東海旅客鉄道(株)
建設工事部 電気工事課（東京信号担当課） 主席

山崎 友貴

東海道新幹線の一部橋梁では、通路下のケーブル管路に作業員が降りられないため、ケーブルを敷設する場合、橋脚部から高所で狭いケーブル管路上をはって作業する必要があった。このため、橋梁の手摺に掛けられる作業床付の梯子を開発し、安全で効率的なケーブル敷設方法を確立した。

11:40

⑦ 安全には愛がある

九鉄工業(株) 福岡支店
土木課 係長

松田 直樹

過去の事故事例や事故速報を参考にして現場と照し合わせて危険の芽を洗い出し、実際に作業する人の目線で愛のある現場づくりに取り組んだので紹介する。①橋脚の注意喚起と既設橋脚の養生②現場安全通路の確保③鋼矢板吊金具ラジコン④足場計画と墜落防止

（12:00～13:20 昼休み） 13:20



安全管理活動分科会（第3会場）

13:20

8 線路閉鎖手続きにおける取扱い誤りの防止に向けた取り組み

東日本旅客鉄道(株) 八王子保線技術センター
計画G 施設技術係

折本 大輝

線路内での保守作業等を実施するための「線路閉鎖」と呼ばれる手続きにおいて、人為的ミスによる誤操作という危険な事象が発生した。職場内で原因を徹底的に議論し、形骸化の恐れがあった手続きの二重チェックのあり方を見直した。見直した内容は、他職場にも広く展開されるに至った。

13:40

9 東海道新幹線大規模改修工事における安全確保の取り組み

名工建設(株)
京都大規模改修部 作業所長

岡崎 正洋

京都地区の高架橋大規模改修工事において、労働災害や新幹線の運転事故を防止するため、現場状況に応じた安全な作業足場の設置や荷揚げ装置・リフターを使った重量物の取り扱い、トラッキングなど火災防止対策、安全のための本質を探究する運動など安全教育の取り組みについて紹介する。

(14:00～14:10 休憩) 14:10

10 金沢駅北陸新幹線での列車給水作業省略に向けた検討

西日本旅客鉄道(株) 金沢支社
新幹線運輸課 課員

高木 明寛

金沢駅では新幹線列車への給水作業を行っているが、給水作業を行うホーム下は給水時に溢れた水や雨により水溜まりが常時発生しており、冬場には積雪や水が凍り滑る箇所がある。また、高さが約160cmで歩行に支障がある。そこで、ホーム下での作業自体を省略することでの課題解決を検討した。

14:30

11 列車との触車事故防止に向けた取り組み

日本貨物鉄道(株) 東海支社
西浜松駅 輸送指導係

大原 直人

西浜松駅構内における東海道本線横断歩行路には踏切警報灯等がなく列車の接近が分かりにくい為、危険である。そこで少し離れた場所にある踏切警報灯の種類を全方向型踏切警報灯にする事および、社員通路を工夫し視認性の向上や視覚を広げ列車触車事故防止を行った。

14:50

12 鉄道機械設備作業におけるリスク低減、重大事故撲滅の取り組み

(株)JR西日本テクシア
技術本部 保安全管理部 係長

中尾 佳誠

某駅で直前の保守作業に起因するエスカレータ火災が発生した。これを契機に作業に起因した重大事故の防止・リスク低減のために、作業前に過去の事故事例と照合して事前にリスクを把握し、対策を立てる仕組みを構築し、一定の効果を上げたので、その取り組みを紹介する。

(15:10～15:20 休憩) 15:20

13 区員の声が反映された「働きやすい」職場づくり

東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部 運輸部
二子玉川乗務区 運転士

島田 宗敬

当区の人員が増える中で職場の使用できるスペースは限られている。そこで環境改善の為に全員にアンケートを実施し職場内の見直しを図った。また普段の作業で使用する場所の安全パトロールを行い、そこに潜む危険箇所を洗い出し要注意箇所から自分たちにできる事故防止対策を講じた。

15:40

14 鉄道沿線除草剤散布作業の安全・効率化

JFE ウェストテクノロジー(株)
鉄道部操業Gr 班員

大倉 裕之

本テーマは危険リスクが高い上に火災の原因、また作業効率が悪く活動する事に至った。工夫は従来の考えにない鉄道台車を活用しての散布をする事で安全かつ効率的に除草剤散布できるようになった事である。苦労した点は除草剤を広範囲に散布できるようにする事と給水時の安全化である。

16:00

15 3つの状態目標達成に向けた金沢支店の取り組み状況について

(株)JR西日本テクノス 金沢支店
安全推進部 車両係

亀田 明樹

JR西日本が定める安全計画に対しグループ会社として3つの状態目標(5か年後の在りたい姿)を掲げて取り組み始め、1年目としての安全活動の取り組み状況の一例を紹介する。品質RAや工具管理、重大労災RA等、様々な取り組みを苦労を重ねながらPDCAサイクルを意識して進めてきた。

(16:20～16:30 休憩) 16:30

16 鉄道工事における「軌陸車使用時」の安全管理について

仙建工業(株) 福島支店
郡山土木出張所 副所長

清水 健太

鉄道工事において、リスクが高い軌陸車を使用する工事。環境条件も様々であり、計画から施工当日までにおけるリスクを洗い出し、常にベストな安全管理を行う為には何が大切か、取り組んでいる事故防止対策について、過去の教訓から学んだことも含めて、実践している方法を発表する。

16:50



安全管理活動分科会（第3会場）

16:50

17 電力指令の事故防止と安全のレベルアップに向けた取り組み

東日本旅客鉄道(株) 長野支社
設備部 電力課 主席

勝田 三郎

将来的な環境の変化を見極め、先取り型の課題解決に取り組んだ。その中でヒヤリハットの共有やヒューマンエラー対策等、電力指令の普段の対応の中で現場作業員の死傷事故を発生させない取り組みと、世代交代による組織の弱体化を防ぐための社員教育方法や業務の見直しを行った。

17:10

10月25日（金） プログラム（9:00開場）……………

9:30

18 き電系統の複雑な8線区間における安全な停電作業の実施

西日本旅客鉄道(株) 大阪工事事務所
新大阪建築工事事 助役

中田 恵志

東淀川橋上化では8線区間での施工となるが、き電系統が複雑であり、線路閉鎖間合・停電時間もまちまちであることから、線別を間違えることによる地絡、隣接線の線閉が取れていないことによる触車が想定される。過去の事象を振り返り、そこから得た教訓をどのように活かしたかを述べる。

9:50

19 マルタイつき固め作業における安全の取り組みについて

九鉄工業(株) 福岡支店
軌道課 所員

小原井 竜也

マルタイという鉄道の保守用機械を操作する上でのトラブルやリスク等を過去の反省を踏まえて分析し実用新案登録までの取り組みを発表する。①タンピングツール折損時の根元抜き金具②マルタイ停車時の橋絡防止シートの開発③ツールを落とす位置のLEDレーザー表示

10:10

20 高所作業における墜落事故防止の取り組みについて

北海道旅客鉄道(株) 旭川運転所
検修科 車両係

岸本 匡平

弊社では2015年に墜落による死亡労働災害を発生させてしまった。この労働災害発生を受け、当所の高所作業環境を再確認したところ、墜落に発展する問題点が確認された。この問題点を解決するため、設備と社員教育の改善を行い、作業環境の安全性向上と社員の意識向上を達成した。

（10:30～10:40 休憩） 10:40

21 社員の更なる安全意識向上を目指して～静から動へ～

西日本旅客鉄道(株)
近畿統括本部 網干総合車両所 宮原支所 車両管理係

大森 敦夫

当支所では社員の安全意識向上を目指し、日々実施しているKYTに着目した。静止画KYTから動きのある動画KYTを導入したことで一連の流れが理解でき、誰もがやりそうな事象を題材とすることで具体的なリスクが挙がり、リスクの共有ができ安全に対する意識向上に役立っている。

11:00

22 保線業務における安全衛生の取り組み

東京急行電鉄(株)
鉄道事業本部 工務部 保線課 新丸子保線区 技術員

國崎 将

保線業務における保守、工事等の重大事故は列車運行に支障をおよぼし社会的影響が大きい。事故発生「ゼロ」の目標達成に向けた、列車通過直近作業の保線業務に特化した「列車見張員教育」および当社と協力企業の双方向コミュニケーションで安全を向上した「安全リレー」等を紹介する。

11:20

23 ヒヤリハット事例の更なる活用～事例集作成と教育の軌跡～

東武インターテック(株)
業務部 南栗橋工場 係員

江森 優

当社ではヒヤリハット事例の収集を平成22年から始め、約650件の事例を蓄積している。収集した事例を教訓とし所属員へ伝え、輸送の安全や作業安全の向上に活かすため、ヒヤリハット事例集を作成した。現在は、KYTにおける教材として事例集を活用し、教育の充実を図っている。

11:40

24 実践的な5S推進活動の取り組み～施工会社と一体となりつくる現場の安全～

九州旅客鉄道(株)
建設工事部 施設課 課員

久保 景介

ある現場で2年連続発生した設備損傷の原因を探る中で、当該現場では工事用材料や当社所有材料の整理状態が良くないことに気付いた。そこで、事故等の発生リスク低減に5Sが重要であると考え、施工会社と一体となって5Sを推進するために取り組んだ内容について紹介する。

（12:00～13:00 昼休み） 13:00



安全管理活動分科会（第3会場）

13:00

25 乗務員区所における安全・安定輸送に向けた取り組み

東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 宇都宮車掌区
車掌

田口 大輔

乗務員が乗務中、気になる箇所等を紙の掲示版で情報共有していたが、タイムリーではないためタブレットで書き込み、情報共有できるようにした。また、半自動、自動のドア扱い誤りを防ぐためにタブレットリマインダー機能を用い、アラームを鳴動させ、駅到着前の注意喚起を行った。

13:20

26 線路巡回における労働災害防止への取り組みについて

西武鉄道(株)
工務部 飯能保線所 副所長

岡本 仁

現場にはどこで、どのような危険が潜んでいるのかを集約するため、アンケートを取り効果的な対策を行った。その結果、より安全に作業ができる労働環境が構築された。普段からの危険に対する考えを話し合い、形にすることにより、労働災害に対する意識の向上にもつながった。

13:40

27 名古屋駅構内における触車事故防止の取り組み

東海旅客鉄道(株)
東海鉄道事業本部 名古屋保線区 施設技術係

伊藤 勇雄

中央新幹線の名古屋駅での工事増にともない、人・物の触車リスクが高まった。リスク低減の検討を行った結果、軌道短絡器および黄色パトライトを設置することで人の触車リスクを低減し、列車確認者を配置することで物の触車リスクを低減させた。さらに本取り組みを規程に定め、歯止めとした。

(14:00 ~ 14:10 休憩) 14:10

28 ヒヤリ・ハット報告の有効活用について

日本貨物鉄道(株) 名古屋貨物ターミナル駅
駅フロント 営業指導係

久原 百佳

過去5年間の1062件のヒヤリ・ハットを詳細に分析し、繰り返し報告されリスクの高いものを明らかにした。それに対し触車事故防止キャンペーンの実施や、構内を降車禁止とするため試験を繰り返し実施し交通ルールの見直しを行うなど新たに改善策を講じ、重大災害未然防止を図った。

14:30

29 全員参加による点呼執行および跡確認実施状況ビデオ評価の試行

大鉄工業(株) 和歌山支店 和歌山出張所
副所長

湊 寛史

鉄道では始業点呼で列車間合、作業手順等の確実な周知および作業後に列車安全確保のための跡確認が重要である。この実施状況をビデオ撮影し、指導者クラスが抜き取りで確認し指導している。各出張所の定例会議を活用し、全員で評価する方法を試行した。この取り組みについて発表する。

14:50

30 職場自主的安全活動の推進（安全最優先の意識の浸透）

(株)JR西日本テクノス 網干支店
空調部品課 車両係

地海 勇也

労働災害撲滅に向けて「安全最優先の意識浸透により各人の安全考動実践」に繋げるべく「職場自主的安全活動」を展開している。これにより「競合・協力意識」が芽生え「組織力強化」に繋がっている。更なる展開により「毎日の食事・睡眠」のように日常的なモノへと常態化させていく。

15:10